

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成26年度)

2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(5/7)

	評価区分(※)	評価結果 (ⅠとⅡとⅢの平均値)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗に関する評価	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	総合評価	
北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区 (北海道等)	正	3.9	4.0 進捗度 ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額等 91%	4.0 規制の特例等 ・農業経営改善自家用貨物自動車活用事業 等 財政支援等 ・投資促進税制支援 4件 ・国際戦略総合特区利子補給金 3件 等 地域独自の取組 ・食品臨床試験事業補助金等	3.8	<p>・目指す方法は適切であり、ゆっくりではあるが売り上げは着実に伸びている。食の需要を喚起する方策について記述されていないことは改善が期待される。</p> <p>・地域独自の取組が多く試みられ、リモートセンシングやイスラム諸国への展開など特徴ある試みが評価できる。</p> <p>・期間中に当事業地区の食品輸出は増加したものの、全国の食品輸出額における寄与は小さく、他の地域に比べた北海道の優位性が失われていることが懸念される。</p> <p>・北海道製品の優位さを示すブランド化、国際マーケットにおいてターゲットにする地域や製品の設定などの国際市場拡大戦略のより実践的な練り上げが求められているのではないかと。また、国や自治体を含めたロジスティックな取組も検討されたい。</p>

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

※「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。